



## 芸術文化の薫る やすらぎの道

せきしょうひじゅつかんとせきしゅうわしのさと しおじなぎさみち

# 石正美術館と石州和紙の里 潮路なぎさみち

平成24年度認定 / 島根県浜田市 / 潮路なぎさみち実行委員会

## 水陸交通の要衝・三隅川との共存の町。

かつて港町として栄えた浜田市三隅町は、入江に恵まれた地形から、山陰道の水陸交通の要衝として栄え賑わっていました。町の南を望む高城山の山頂には、この地域一帯を支配した鎌倉期の豪族、三隅兼信の居城であった三隅城跡が残っています。城跡からは町を一望することができ、今も歴代三隅氏の強い反骨精神は町の人々

の心に深く根付き脈々と受け継がれています。

「水澄みの里」とも呼ばれる三隅町は、町の中央を縦断する三隅川の豊かな水量により、古来から独自の製法による丈夫で雅味に富む石州和紙の生産が盛んで、この地方の重要な産物でした。江戸時代には御用船商人が竹島まで赴いて中国大陸へ密貿



田ノ浦公園から見える  
あかね色の入り日に染まる日本海

## 夕日の日本海 そして 歴史文化と芸術



ヨーロッパ調の美しい建物の浜田市立石正美術館



島根  
③ 石正美術館と石州和紙の里 潮路なぎさみち

易に使用したり、年貢米に変わった紙年貢として幕末まで藩の財政を支えました。しかし、町に多くの恵みを与えた三隅川は時として町の人々に災いをもたらすことがあり、昭和18年・58年の2度にわたる大水害では多くの犠牲者が亡くなりました。この教訓から、町は高台へ小中学校を始め町の施設の移転を行うとともに、浜田市立石正美術館や石州和紙会館を開館し、三隅の心に触れ芸術文化を次世代へと伝承していく場を創りました。ここには三隅町の文化を発信する心豊かな空間が拡がります。ひととき人々が集う美術館の回廊は、やわらかな曲線に包まれて際だった美しさを見せます。

高台を下ると、川沿いに太古の昔より繰り返される入り日がまばゆい情景の日本海

へと誘う「潮路なぎさみち」へ繋がっていきます。河口右岸には、中世以来河口港として繁栄した湊浦があります。鉄道の開通と共に港が無くなり港町としての様相は残していませんが、一角の古い町並がかつての活気を感じさせます。さらに左岸には奈良時代から市のたっていた古市場の漁業集落を見ることができます。

西には針藻山、東には湊浦の古い街並みが望める三隅川河口で、平成25年から始まった『灯ろうまつり』は、町の歴史を後世に語り継ぎ先人との絆を大切にしているとの思いから、いにしえの昔より伝わる石州和紙に手描きした灯ろうを並べ、大水害で犠牲となった方々の慰靈を行っています。祖先を偲ぶこの行事は、心すかれるまち三隅の宝として引き継がれています。

### 伝統と街道が仲間と地域を結びます。

潮路なぎさみちの街道沿いにある湊浦八幡宮(みなどうらはちまんぐう)は毎年10月の第2土曜日、日曜日を祭典日と定められ、石見神楽の上演をはじめ露天商が数多く立ち並び、子どもから大人まで大賑わいの街道でした。

今でも街道筋には家と家とを結ぶ『しめ縄』と『紙垂(しで)』で飾りつけ、数は少なくなりましたが露天商も出て祭を盛り立てています。良き伝統として現在に引き継がれ、地元の方々をはじめ他の地域からも来て交流を深める場になっています。今後も良き伝統と街道を見守っていきます。

